

## 9/24 健康公開講座「がん検診—女性の受診率を上げよう」質疑応答

**Q1** がん検診結果による精密検査受診と症状があることによる自主的受診の場合の医療費の取り扱いについて教えてください。

**【回答】**

当院では、がん検診等の結果により精密検査受診の指示を受けて受診される場合は、初診時選定療養費（他の医療機関からの紹介状がない場合に必要となる追加の医療費）は請求しません。一方、なんらかの症状がありかかりつけ医等からの紹介状なしに当院を受診された場合は、初診時選定療養費をご負担いただきます。ただし、状況によりご負担の有無が変わる場合があります。ご不明な点は、当院（医事課）までお問い合わせください。

**Q2** 子宮体がん検診はどのような検査が行われますか。

**【回答】**

子宮内に器具を入れて子宮内膜を採取する子宮内膜細胞診検査を行います。対象は、6か月以内の不正出血のあるものや経膈超音波検査で子宮内膜肥厚を認めるものなどであり、診察した医師が検査の必要性を判断します。子宮内の検査なので痛みを伴うことがありますが、子宮体がんが早期発見されるメリットがある検査です。医師とよく相談の上、検査を受けてください。

**Q3** 検診を受ける施設は変えない方がよいですか。

**【回答1】（乳がん）**

同じ施設で乳がん検診を受けていただくと、過去の画像との比較が可能になります。前回からの変化がないことが確認できることで要精検にならない場合があったり、逆に、病変が認識でき、診断しやすくなる場合もありますので、より精度の高い診断につながります。この点をご理解いただいた上で、検診施設を選ぶことをお勧めします。

**【回答2】（子宮頸がん）**

子宮頸がんを早期発見する（異常な細胞を見つける）という意味では、どの施設で検診を受けても大きな違いはありません。ただし、超音波検査で子宮筋腫や卵巣腫瘍などを指摘されている場合、同じ施設であれば過去の検査結果等との比較ができますので、その点では検診を受ける施設は変えない方がよいと言えます。

**Q4** HPVワクチンは3回打てばもう一生うたなくていいのですか。

**【回答】**

3回のワクチン接種で少なくとも10年間は効果が維持されることがわかっています。時間経過で抗体価は下がりますが、現時点で例えば10年後に追加接種をしたほうがよい、というデータはありません。

ワクチン接種とがん検診の併用が重要なので、がん検診も定期的に受診していただくようにお

願います。

Q5 HPVワクチンについて(10から26歳で強く勧められているが)なぜ10歳という早い年齢なのか、小学4年生ぐらいで将来の性交渉に効果がありますか。

**【回答】**

現在、定期接種の対象は小学6年生～高校1年生の女子です。HPVワクチンは性交渉を経験する前に接種することが、効果の面でとても重要なためこの年齢が設定されています。ワクチンの効果は少なくとも10年間は維持されるので、将来にも効果があります。また、思春期にワクチン接種することで最も効果的に免疫を獲得できるということもわかっています。

HPVワクチンについてわかりやすくまとめられているサイトはこちらです。参考にしてください。  
(<https://minpapi.jp/info/>)